

VMware vCloud Air Disaster Recovery

VMware の Recovery-as-a-Service (サービスとしてのリカバリ) ソリューション

概要

VMware vCloud® Air™ Disaster Recovery は、新しい Recovery-as-a-Service (RaaS: サービスとしてのリカバリ) ソリューションです。VMware vSphere® の仮想環境を対象に、クラウドを基盤としたディザスタリカバリ機能を提供します。また、VMware のハイパーバイザーベースのレプリケーション エンジンである vSphere® Replication™ と、vCloud Air との新たな統合機能を提供しています。

Disaster Recovery には次の特徴があります。

- セルフ サービスによる仮想マシンのディザスタ リカバリ 保護
- RPO (目標復旧ポイント) を 15 分から 24 時間の間で設定
- フェイルオーバー テストの自動化、計画的な移行、およびリカバリ
- 柔軟なコンピューティング キャパシティとストレージ キャパシティ
- オフラインでのデータ移行のサポート
- 専用線ネットワーク オプション
- 柔軟なフェイルオーバー テスト

主なメリット

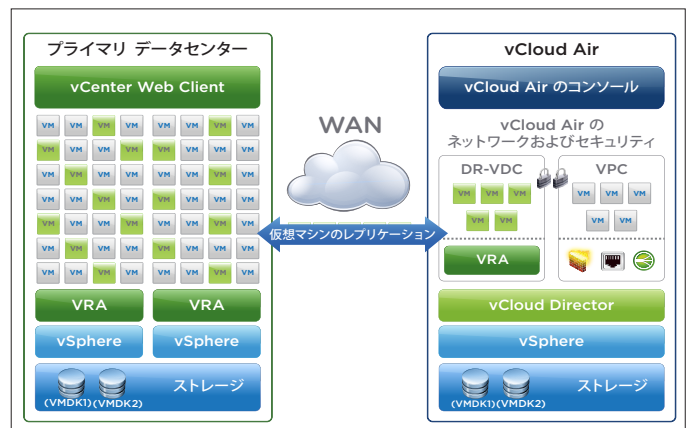
- VMware vCenter™ Server とネイティブに連携し、ハイブリッド クラウドと互換性のあるビジネス継続性 (BC) とディザスタ リカバリ (DR) 機能を容易に利用可能
- vSphere で実行している業務アプリケーションやミッションクリティカル アプリケーションのリカバリ時間を短縮
- 仮想マシンによるカプセル化とレプリケーションにより、アプリケーションに依存しない保護を実現
- ハードウェアに依存しないため、データセンターのアップグレードやライフサイクルの変化があってもレプリケーションとリカバリを一貫してサポート
- クラウドの使用により、フェイルオーバーとリカバリ処理を簡素化し、ディザスタ リカバリ プラン全体のコストを大幅に削減
- クラウド内でディザスタ リカバリ保護に使用するキャパシティを拡張できるため、ビジネス ニーズの変化に対応可能
- VMware が提供する本番環境レベルのサポートと SLA (サービス レベル アグリーメント)
- 複数のサブスクリプション オプション

Disaster Recovery の概要

vCloud Air Disaster Recovery は、VMware が所有および運営する新しい RaaS ソリューションです。vSphere Replication と、IaaS (サービスとしてのインフラストラクチャ) 用のハイブリッドクラウド プラットフォームである vCloud Air を基盤としており、これらのコンポーネントを組み合わせることにより、ディザスタリカバリの機能や保護の範囲を、サービス指向のシンプルな方法で拡大することができます。vSphere 仮想環境で実行しているすべての業務アプリケーションや、ミッション クリティカル アプリケーションも保護対象に含まれます。

Disaster Recovery は vSphere Replication を活用し、堅牢な非同期レプリケーション機能をハイパーバイザー レイヤーで実現します。このレプリケーション方法によって、vSphere 内の仮想マシンのディザスタ リカバリを容易に構成できます。従来のように、基盤となるインフラストラクチャ ハードウェアやデータセンターのミラーリングに依存することはありません。レプリケーションとリストアは仮想マシン単位で行うため、実際のディザスタ リカバリのビジネス要件が変わっても、動的にリカバリ目標を達成することができます。

Disaster Recovery はクラウドを活用し、コンピューティングインフラストラクチャとストレージ キャパシティ用の拡張可能なプラットフォームとして vCloud Air を使用します。Disaster Recovery は、安全性に優れたマルチテナント クラウド アーキテクチャを使用することで、多様なキャパシティ要件に対応し、レプリケーション、フェイルオーバー、リカバリなどの一般的なディザスタ リカバリ操作をサポートします。また、従来のような社内実装するディザスタ リカバリ ソリューションや管理対象サービスソリューションと比べて、コストを大幅に削減できます。保護対象の範囲や保護のタイミングをセルフサービスで高度に設定できるため、Disaster Recovery は、ハイブリッド対応のビジネス継続性 / ディザスタ リカバリ機能を仮想エンタープライズ全体で広範囲かつ容易に展開することが可能です。



Disaster Recovery は、ハイブリッド対応のビジネス継続性 / ディザスタ リカバリ機能を提供します。

主な機能

セルフサービスのディザスタ リカバリ保護

Disaster Recovery では、サブスクリプション（契約）あたり最大 500 台の仮想マシンを必要に応じてセルフサービスで保護できます。Disaster Recovery は vSphere Replication を使用し、VMware vCenter Server とシームレスに連携することで、個々の仮想マシンをサービスに登録し、クラウドでのリカバリを有効にするための権限管理を簡素化しています。

カスタマイズ可能な目標復旧ポイント（RPO）

Disaster Recovery は、vSphere Replication で可能な RPO（15 分～ 24 時間）を完全にサポートしています。仮想マシン単位で個別に RPO 値を設定できるため、ビジネス アプリケーションの優先度に応じてレプリケーションの頻度を細かく管理できます。

フェイルオーバー用 SLA による高い信頼性

Disaster Recovery では、テスト フェイルオーバーまたはライブリカバリ処理の SLA（サービス レベル アグリーメント）を、仮想マシン単位で 4 時間以内に設定しています。この SLA を目標に、vCloud Air でリカバリ対象となっているすべての仮想マシンが確実にパワーオンされ、リモート アクセスが可能になります。

フェイルオーバー テスト、計画的な移行、リカバリの自動化

Disaster Recovery では、フェイルオーバー テスト、計画的な移行、およびライブ リカバリを仮想マシン単位で実行するための自動ワークフローが組み込まれています。vSphere Replication と vCloud Air コンソールの両方から、ワークフロー実行とタスク管理が可能のため、いつでも Disaster Recovery 環境にアクセスすることができます。

柔軟なクラウド コンピューティングとストレージ

Disaster Recovery には、さまざまなサブスクリプション オプションが提供されているため、ディザスタ リカバリ環境のスムーズなサイズ調整に対応し、保護対象の仮想マシン台数の変化に応じて拡張が可能です。キャパシティ選択機能により、クラウドのコンピューティング キャパシティとストレージ キャパシティが予約され、常にリソースを確保できるようにします。短い期間、フェイルオーバーやリカバリ要件に対応する必要がある場合は、1 回限りのオプションとして、コンピューティング キャパシティを追加できます。

オフラインでのデータ移行

Disaster Recovery は、vCloud Connector の Offline Data Transfer 機能を使用して、レプリケーション前に、大容量の仮想マシンやそのデータを vCloud Air にオフラインで移行できます。

専用線ネットワーク

Disaster Recovery は、vCloud Air Direct Connect を活用し、専用線ネットワークを使用して、プライマリ データセンターと vCloud Air 間で、最大 1 Gbps のレプリケーショントラフィックを転送します。

柔軟なフェイルオーバー テスト

Disaster Recovery では、個別に用意されているフェイルオーバーテストを利用して、サービス期間中に必要な頻度でさまざまなフェイルオーバー シナリオをテストできます。

サポート

VMware は、vCloud Air Disaster Recovery のすべてのお客様に、サブスクリプション サービス向けのサポートを提供しています。これには、ご利用中のサービスのサポートのほか、スペシャリストによる導入支援が含まれます。さらにご希望のお客様には、導入を開始するうえでのベスト プラクティスを提供する、[コンサルティング サービス](#)も用意しております。

システム要件

ソフトウェア

- VMware vSphere® 5.1 以降（Essentials 以上のエディション）
- VMware vCenter™ Server 5.1 以降

詳細情報

VMware 製品のご購入、または詳細情報については、次の製品 Web サイトをご覧ください。

<http://www.vmware.com/go/jp-vcloud-air/>

購入方法

vCloud Air Disaster Recovery には、さまざまな期間のサブスクリプション オプションと、便利なアドオンが用意されています。アドオンにより、ディザスタ リカバリ要求の変化に応じた機能拡張が可能になります。

	Disaster Recovery (基本サブスクリプション)
コンピューティング	<ul style="list-style-type: none"> 10 GHz の仮想 CPU 20 GB の仮想メモリ マルチテナント
ストレージ	1 TB
ネットワーク	10 Mbps の帯域幅
パブリック IP アドレス	2 個
フェイルオーバー テスト	回数制限なし (基本サブスクリプションの契約期間中)
サポート	<ul style="list-style-type: none"> 24 時間 365 日
サブスクリプションの契約期間	<ul style="list-style-type: none"> 1 か月 3 か月 12 か月 24 か月 36 か月

	Disaster Recovery (アドオン サービス)	サブスクリプション 期間
コンピューティング	<ul style="list-style-type: none"> 10 GHz の仮想 CPU 20 GB の仮想メモリ マルチテナント 	基本サブスクリプションの契約期間と同じ
コンピューティング (1 か月)	<ul style="list-style-type: none"> 10 GHz の仮想 CPU 20 GB の仮想メモリ マルチテナント 	1 か月
ストレージ サポート	<ul style="list-style-type: none"> 1 TB Production Support (プロダクション サポート) 	基本サブスクリプションの契約期間と同じ
ネットワーク	10 Mbps の帯域幅	基本サブスクリプションの契約期間と同じ
直接接続	1 Gbps	基本サブスクリプションの契約期間と同じ
パブリック IP アドレス	1 個	基本サブスクリプションの契約期間と同じ
オフライン データ転送	11 TB	1 回のみ

